毎年誰かが落込む

サクが欲しい四山社宅北部

四山社宅の北側に面したところは海に注ぐ川が流れている。幅約三間のこの川は深さが二米ほどある。ところが、もっとも北寄りの社宅の各棟は、川の近くまで寄っており川ぶちまで玄関から約二間ほどしか離れていない。以前は家の前にはサクをしていたといわれているが、いまはキレイになくなっている。ただポツンと残っているところもあるというありさまで、おまけに各棟の間は手ごろな広場となっているので、子供たちの昼間の遊び場となっている。

ところが、サクがないため子供たちがチョイチョイ落ち込むという事故がこれまでも何回もあり、これは年々くり返されている。幸いこれまでは大した怪我人も出ず無事にすんでいるからよいものの、こんごも怪我人は出ないとはだれも思っていないようである。その証拠には、とにかくサクをしてもらおうと、地域からもたびたび申入れをしたが、予算の関係で……と、いつも実現までには行かず、地域や主婦の人たちの大半はなかばあきらめているようである。川は満潮のときは海水が入り込んで八分目ほど海水につかってしまう。八月の高潮のときなどは上から一尺を残すぐらいにまで溢れる川が望のときに落ちこんだときはカスリ傷ぐらいですんでいたが、満潮のときにでも落ち込むと大変だ。

先年も干潮満潮のとき落ちこみ、附近に大人がいず知らなかったので、潮に押されて沖の方まで押し上げられていた。危うく溺死はまぬれ一命はとりとめたが、溺れてでもいれば一命にかかわるものであり、親たちに恐怖を与えたこともあつた。

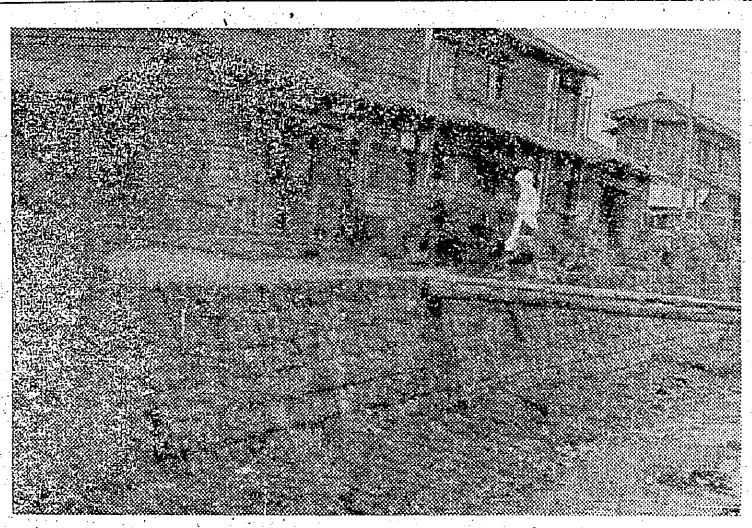
夏になるとメダカに似た小さい魚も川面に出てくるので、子供たちはこれを採るために岸辺によってくる。

親たちは口を酸っぱくして川に近寄るなというが、一寸目を離すと川辺にいって遊んでいるときが多いという。遊び場も手近かにないとあつては無理もないことであるときには大人の酔払いも路ち込むというから、酔歩満歩と酒落れはばかり間違えば落ち込むとあつては酔払いも安心ができないありさまである。

地域の主婦たちもこういっていた私はここに七年ばかり住んでいますが、サクはそのころからありませんでした。

いままでにも分会から申入れたんですがね……。予算がどうのといっていつまでたっても実現しません。幸い子供のことでいままで死んだ人はいませんが、毎年落ち込んでいますよ。私のところも三輪車ぐるみ落ちました。早くなんとかならないでしょうかね。

と訴えていたが、附近にいた主婦たちも、そうだとばかりコツクリとうなずいていた。



サクが欲しい岸に向う側の川

知事の退陣を

汚職糾明県民協　結成準備へ

福岡県の汚職事件は県政の汚名を全国に流布した。一億円の県公金流用、一千万円の贈収賄容疑をどそしてその金の大半は議会の与党伯工作へとつぎ込まれている。

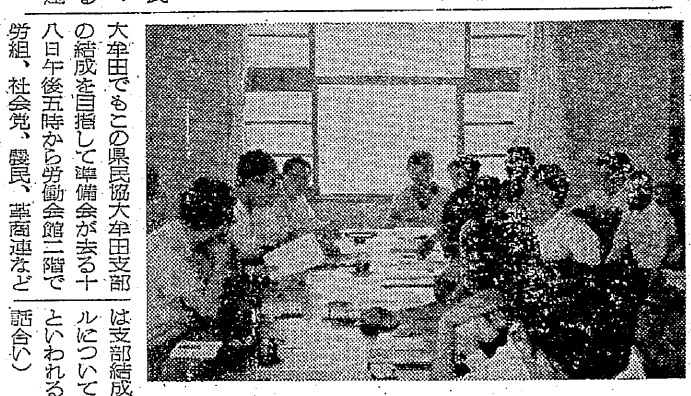
どうごうたる県民の非難の声にもかかわらず山本副知事の辞職、小林県会議長の辞任で土屋知事はこれで事件にケリがついたものとしてズブトク知事の座に居座ろうと県民の声を全く無視して「汚職事件のことは知らない」といい切っている。

事件直後、民主諸団体の代表で結成された「土屋県政汚職糾明県民協議会」（略称「県民協」）は直ちに国会とも連絡をとり、県会特別調査委員会のバックの与論代表組織として、広はんな活動をはじめ、四月中旬全県下第一回の演説会を持ち組織的な活動へ入つた。この運動は五月一日のメーデーによつてさらに高められた。全県民は政党支持の何らかを問わず、すべて土屋知事の退陣を望んでいるこういう中でリコール運動の気運が高まつてきている。

福岡県の汚職事件は県政の汚名を全国に流布した。一億円の県公金流用、一千万円の贈収賄容疑をどそしてその金の大半は議会の与党伯工作へとつぎ込まれている。

どうごうたる県民の非難の声にもかかわらず山本副知事の辞職、小林県会議長の辞任で土屋知事はこれで事件にケリがついたものとしてズブトク知事の座に居座ろうと県民の声を全く無視して「汚職事件のことは知らない」といい切っている。

事件直後、民主諸団体の代表で結成された「土屋県政汚職糾明県民協議会」（略称「県民協」）は直ちに国会とも連絡をとり、県会特別調査委員会のバックの与論代表組織として、広はんな活動をはじめ、四月中旬全県下第一回の演説会を持ち組織的な活動へ入つた。この運動は五月一日のメーデーによつてさらに高められた。全県民は政党支持の何らかを問わず、すべて土屋知事の退陣を望んでいるこういう中でリコール運動の気運が高まつてきている。



大牟田でもこの県民協大牟田支部の結成を目指して準備会が去る十八日午後五時から労働会館二階で労組、社会党、醤民、革固連などの代表二十数名が出席して行われた。

県特調委の一人として事件の渦中で活躍している浦川県議から事件の内容の説明があり、何故リコールが必要かを説かれた。またこれに対する各方面の動きも説明されついで小宮県議から「県民協」について説明があり、組織としての協議会が詳しく述べられた。

すでに県下各地の主要な地評のあるところでは支部結成を行つており、リコールについての運動と取組んでいるといわれる。（写真は結成準備の話合い）

道路へ出るゴミ

焼却場へ欲しいサク

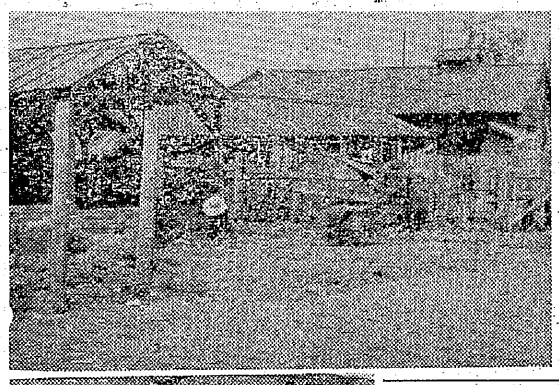
梅雨期に入り湿度もひかえて衛生対策が急がれるとき、ここ万田仲町地域分会内にある塵埃焼却場の整備をのぞむ声が高まつている。ここ仲町の焼却場は道路に面しちようど角に位置している。

ところが北に面したところは柵がなく、吹きさらしで自由に出入ができるようになつている。

ここが仲町でのハエ、蚊の発生源ですよといつている主婦もあるほどだ。コツソリよそからきて犬や猫の仔を捨てるものもいるというのもナヤミの種らしい。

ゴミ焼却場といつてもきめつたに焼却することはなく、たまに煙が立つているのをみると地域の人たちはいつてみる。

ゴミ拾集も一週間に一回か十日に一回ぐらい行われているようでゴミが一杯になると、がないものだから道路にハミ出すことも往々あり「不衛生だ」「ミソトもない」という声が非常に多くなつてきた。



米また値上げか

荒地評反対署名運動へ

臨時食糧調査会は六月十一日政府に「消費者米価の値上げもやむを得ない」と答申、また米価が値上りしそうな気配だが、これに対し全国食糧対策連絡協議会、総評婦団連、生活協組連、中央農業会議労組福祉対協など十六団体）は十一日、東京有楽町の農協会館で拡大常任委員会をひらき、消費者米価値上げ反対声明を出すとともに、六百万人の署名や国民大会（二十日、東京新橋ステージ）など全力をあげて反対運動をすすめることをきめた。

また、この日正午ごろ総評岩井事務局長、塩谷福対部長は井出農相と会見、消費者米価値上げ反対を申入れた。

◎声明＝政府は再び消費者米価の値上げを企図している。すでに国鉄運賃は値上げされ、つづいて私鉄運賃、電気料金、フロ代などが値上げされようとしている。少額とはいえ消費者米価の値上げの家計に与える影響はきわめて大きい。全国食糧対策連絡協議会議下の全組織は、これら政府の意図を阻止するため、総力をあげることを決意する。

又荒地評でも早速さる十八日米価値上げ反対の街頭署名運動を展開

荒尾駅前、県境の二カ所で街頭に進出、道行く人への反対署名を訴えた。労働者、主婦、商人、醤民などスピーカーから流れる呼びかけに気持よく寄つて来て、さつさと署名のためにペンを握つていた。

この署名は荒地評ではこの日、一日限り行われたものであつたが、天気もよく二千名が署名した。

（写真は県境で署名する人たち）

三池二連勝なる

山野で三山対抗弓道大会

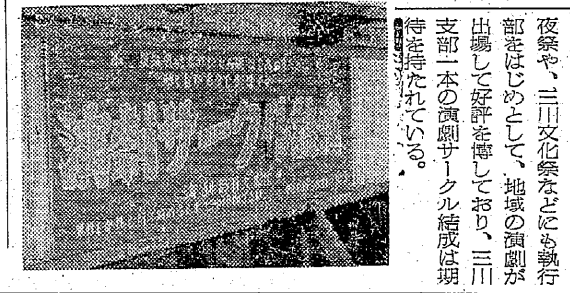
六月九日に予定されていた三山対抗弓道大会は、開催地山野の道場補修のため一週間延期され、六月十六日午前十時より新装なつた山野武大坊弓道場で開催された。

梅雨時のことで降雨が心配されたが、本年の空梅雨に恵まれて照らず降らずの日和の中に、弦音は高く社宅街にこだまして宿敵山野チームとのシーソーゲームは白熱した。三池チームのファイトはさいごに爆発、前回に引続いて二連勝をなした。【成績】

三池チーム　六十三中
山野チーム　五十八中
田川チーム　五十四中

○個人入賞
三上五段（山野）一位
畑田三段（三川）二位
小串四段（宮浦）三位

○礼射賞
河本初段（宮浦）　鈴木三段（宮浦）　田中三段（宮浦）　田島五段（三川）　稲葉錬士（三川）



おばさんヤーイ

三少年にかけた親切

〝大谷のおばさんよドコにいる？〟と、いまこのおばさんを探しあぐねている人たちがいる。

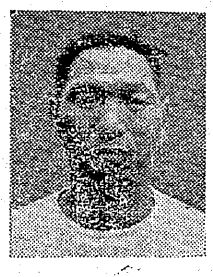
話は今月の去る日曜日のこと、港務支部の組合員田上、松尾さん（緑ガ丘居住）の息子さん田上勇君ら三人（小学校六年生）は汐干狩に勇んで家を出かけた。

家を出たのがお昼の十二時、荒尾海岸で楽しい汐干狩を終り、六時八分の人車で緑ガ丘へ帰ろうとしたところ、この人車に間に合わずつぎの電車まで待つことにきめたところがつぎの人車は午後九時四十分。しかたがなくホームでまつていたが、汐干狩での海の疲れと空腹とで途方にくれて三人とも青い顔をして、グツタリとなつていた。

ちようどそこへ通りかかつたのが前記のおばさんで、三人のグツタリした青い顔をみて驚き、さつそくパンを買つてあたえ、百円札一枚を渡してバスに乗せ、早く家へお帰りと親切にも世話したものである。

三人の話によるとそのおばさんの氏名は分らず、ただ大谷の人とだけしか分つていない。

この話を聞いた少年の両親たちは「一目でもお会いしてお礼を述たい」といつているが、肝心のおばさんの消息が全然分らず困りつている。どなたかこのおばさんを知つている人はいませんか。



行動隊旗寄贈

停年退職の荒巻さん

去る四月三十日、停年退職した港務支部臼井地域分会の荒巻寅松さん（宮浦駅信号手）は、退職を機に、組合や地域にもいろいろお世話になつたし、こんども頑張つてやつて貰いたいと「行動隊」へ隊旗を寄贈した。

なお荒巻さんの長男勝義君（18）もこの五月に無事入替採用もできて、いま宮浦駅で操炭手として元気に働いている。

主婦の「綴方教室」特集は都合で次号にまわします。

カンパ米を讀んで

記事を読んで行くうちに何か感違いをしておられるようですので、一言述べさせて戴きます。

こんどのカンパが一握りでなく、一合に決定したことに問題があるように書いてありましたが、後にどのような問題が残るでしょうか。一握り一合といいますとたしかに量の面におきまして少しの違いはあります。また、握り方もいろいろあります。これはあくまでカンパですので、一握りにしろ一合にしろ、苦しくてやれない方に無理に出して下さい、またそれより以上出してはならないということではなかつたと思います。

会員の自由意思によるものであつて、一握りが一合になつたことが問題でなく、あの記事の中にあつた私達の周囲におられる苦しい方を救うことが大切であると述べておられますが、どのようにして救つて行かれるのかと考えさせられました。勿論、私達としても足もとの会員の苦しい方を救うことが一番大切であるということはわかつております。しかし私達の力だけで真実にこうした人たちを救うことができるのでしょうか。それには余りにも私達の力だけでは弱く救えないのではないでしょうか、だからこそ、私達の力を強くするために、不幸な仲間を救うと同時に私達の生活向上のために、お互いカンパをし合つて組織を守り闘つて行つているのではないでしょうか。

昨年十月末の一円カンパに納得していただいたものなら今年五月の一合カンパも納得して戴けるものと思います。

昨年の役員も今年の役員も三池主婦会の役員には変りはありません。いついかなる場合も会員の幸福をのみ希つて行動し決定しておられると思います。最後に役員、会員ということなく、私達が苦しい中からつくり上げた主婦会の目的を十分思い出し、また反省しながら主婦会の発展のために協力して行きたいと思います。

（建設分会　原田）